

自律学習の今

—台湾の教育現場から—

自律学習とは何か。なぜ自律を目指すのか。自律的に学習することとはどういうことか。どんな効果が望めるのか、そのために教師は何をしたらいいのか。さまざまな問いや声が交錯する教育現場に私たちはいる。

東海大学日本語文学系は、2006年より始まった卓越計画「日語自学区」の運営と初級、中級の基礎科目における自律学習能力育成の実践を振り返り、今後の課題を整理するために、2009年5月30日(於:外文系館L202)、「**自律学習を目指した授業実践発表会**」を行った。大きなシンポジウムではなかったが、大学生の日本語教育における自律学習に関心をもつ台湾の教師たちが数多く集まった。

シンポジウムでは、異なる教育機関のそれぞれの授業で、どのような自律学習能力育成を目指した実践をしているのか、教師はどんな問題に遭遇したのか、またそれに対してどのような改善が施されているのか、など活発な意見交換がなされた。このシンポジウムは文字通り、台湾国内の教師が自律学習の実践について相互に情報交換をする場となった。

自律学習は全ての**意思決定を学生に任せれば自然に成立するものではない**以上、そこには教師による何らかの働きかけが存在するはずである。

私たちは本特集をきっかけに、今後も引き続き、「自律学習とは何か、その教育実践はいかにあるべきか」を考えていきたい。

(本特集は、このシンポジウムで発表した原稿に意見交換を経た論考を加えて再執筆をお願いした論文と新しく書かれた論文によって構成されている。)



- ◆自律学習支援の一方法—多読指導の試み— /武藤泰子
- ◆自律学習融入課程設計—聴寫NHK— /林文賢 嚴竹華
- ◆交換留学生は日本で何を学んでいるのか
—ジャーナル・アプローチの手法による自律学習の考察— /石川清彦
- ◆読解教材を使った初級段階からの自律学習の試み /緒方智幸
- ◆自律学習へのサポート /林珠雪
- ◆初級会話授業における自律学習の可能性と問題点
—東海大学日本語文学系一年生の場合— /王怡人
- ◆自律学習とその実践をどうとらえるか /工藤節子



2009年5月30日(於:外文系館L202)、「自律学習を目指した授業実践発表会」



東海大学日本語文学系自学区